



野田小だより

学校教育目標

活力にあふれた学校

- がんばる子
- やさしい子
- 学びつづける子



互いを認め合い尊重し合う

平成31年2月1日

校長 小林 達哉

このところ、降雨がなく乾燥した日が続いていましたが、昨夜は、久しぶりに雨が降り、少しは乾燥が解消されたようです。でも、まだまだ寒い日が続き、インフルエンザも大流行しているようですので、各ご家庭でその予防に努めていただき、体調管理には十分ご留意ください。幸い、野田小では、今年に入ってから学級閉鎖はまだありませんが、インフルエンザにかかってしまった児童も出てきておりますので、学校でも予防のための指導を徹底してまいります。

さて、1月11日には、野田小を会場に緑区Aブロックサッカー大会が行われ、男子は見事優勝し、女子も大変健闘したのですが、残念ながら敗退してしまいました。18日の中央大会に出場した男子は、対大谷口小との試合で、最初上手にパスをつないで1-0でリードしていたのですが、途中で2点入れられて、結果1-2で惜敗してしまいました。しかし、女子も大きな声を出して応援に専念し、コート外から共に戦っていました。見ていて、年度当初の6年生の様子と比べると、見違えるほどの団結力と助け合いカバーし合うチームワークを発揮し、その成長を感じることができました。応援してくださいました保護者の皆様、ありがとうございました。

話は変わりますが、2月3日（日）は節分です。それにちなんで、今日の給食では、自分で作る恵方巻と大豆を出しました。子どもたちは大喜びをしていました。

節分とは、立春の前日のことを言いますが、もともとは旧暦の季節の変わり目である立春、立夏、立秋、立冬の前日は、全て節分と言っていたようです。その中で、特に立春で春になるのが1年の始まりと考え、今でいう大晦日のように特別な日ととらえられていたので、この2月3日の節分だけが、今でも引き継がれているそうです。その節分の風習には地域ごとに様々なやり方や言い伝えがあるようです。「恵方巻」は、最近では全国的に食べられているようですが、焼いたイワシの頭をヒイラギの枝にさして、魔よけのために玄関に飾る「ひいらぎいわし」というものもあります。また、「豆まき」の豆は「魔滅」に通じ、邪気を追い払い、無病息災を願うために行われるようになったようです。「豆まき」の時、この辺りでは、前を向いて「鬼は外、福は内」と言ってまくのが通常ですが、地域によっては、後ろ向きにまいたり、鬼子母神を祀るところでは、「福は内」としか言わなかったり、ほかの鬼という名がつく神社では、「鬼は内」と言ってまいたりするそうです。さらに、昔、渡辺綱(わたなべのつな)という人が、鬼を退治したという言い伝えがあり、以来、鬼が寄り付かなくなり、豆まきをする必要がなくなったので、渡辺姓の家では、豆まきをしていない家もあるそうです。

地域が変われば、やり方も大きく変わります。どのやり方でなければいけないとか、そのやり方は間違っているとかはありません。世界に目を向ければ、さらにそれは広がります。自分とやり方が違う、考え方が違う、見た目がちがうからと言って、ばかにしたり、悪口を言ったり、仲間外れにすることがあってはなりません。違いを認め合いながら、折り合いをつけて共生していくことが、これからのグローバル化する社会では特に必要です。

互いの違いを認め、尊重し合える児童の育成を目指し、今後も努めてまいりますので、保護者や地域の皆様の御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。